

平成30年度 第1回 旭区区政会議（子育て・やさしさ部会） 議事録

1 開催日時 平成30年7月13日（金） 午後7時から午後8時45分まで

2 開催場所 旭区役所第2・3会議室

3 出席者

（委員）

木野議長、鎌田副議長、浅野委員、井上委員、伊吹委員、岡委員、尾登委員、岸本委員、隅田委員、中野委員、水戸岡委員、横田委員

（旭区役所）

花田区長、土居副区长、長谷村総務課長、松原企画調整担当課長、杉原保健福祉課長、小山保健・子育て支援担当課長、出口生活支援担当課長、他

4 次第

（1）開会

（2）平成31年度旭区運営方針策定及び予算編成に向けた意見・提案について

（3）学習会について

（4）その他

5 議事内容

長谷村総務課長

皆さん、こんばんは。まだお集まりでない委員の方もいらっしゃるようでございますけれども、時間が来ておりますので、ただいまより平成30年度第1回旭区区政会議（子育て・やさしさ部会）を開会いたします。本日はご多忙の中、皆さまご出席いただきまして誠にありがとうございます。私は本日の司会を務めさせていただきます旭区役所総務課長の長谷村です。どうぞよろしく願いいたします。

最初に、資料の確認をさせていただきます。本日使用いたします資料といたしましては、事前にお送りしております資料1、旭区将来ビジョン2022（概要版）と資料2、平成30年度旭区運営方針（概要版）、これが事前にお送りした資料でございます。続きまして、本日お手元にお配りいたしましたものでございますが、5つございまして、1つ目が、平成30年度第1回旭区区政会議（子育て・やさしさ部会）開催次第、続きまして、参考資料といたしまして、平成30年度第1回旭区区政会議（全体会議）における「追加意見

等」への対応方針、3つ目でございますが、追加資料、資料（資料2の参考）といたしまして、平成30年度旭区運営方針の目標値についてでございます。それから追加で、平成31年度運営方針策定及び予算編成に向けた意見票がございます。最後でございますが、資料3、旭区区政会議学習会（案）でございます。不足がございましたら、挙手にてお知らせいただきたいと思います。いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

そうしましたら、ご案内のとおり当会議は原則公開とさせていただいておりますので、本日は、一般傍聴の方がお見えになっておられます。傍聴の方は、入り口に掲示しております傍聴要領に従っていただき、会議の運営にご協力いただきますようお願いいたします。

本日の委員の皆さまの発言内容につきましては、発言者氏名も含めて区役所で会議資料とともに閲覧できるようにさせていただくほか、区のホームページにおいても公表してまいりますので、よろしくをお願いいたします。このため、本日の会議は録音させていただいておりますので、ご了承をお願いいたします。

また、ご発言の際はお名前をおっしゃってからお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、旭区長の花田よりごあいさつ申し上げます。

花田区長

皆さん、こんばんは。いつも大変お世話になっております区長の花田でございます。

本日は、31年度来年度の区政にかかりまして、運営方針でありますとか予算でありますとかということについてのご意見を賜ろうという会議でございます。参考資料としては、今年度の運営方針とそれから今年3月に策定をいたしました今後5年間のビジョン、これをお付けしておりましたところでございます。

運営方針というのは、このビジョンの一年一年の目標値を定めていくというようなものでございますので、ぜひ今年度の項目にないようなものであっても、ビジョンの方針としてはこういうものが要るんじゃないかというようなお話であったりとか、逆にこういう事業というのは、もう時代に合わないからやり方を変えたほうがいいんじゃないかとか、そういうまだまだ白紙の状態でございます。私どもこれから7月の下旬からこの予算でありますとかの議論をしてまいりますので、まだまだ白紙の段階でございますので、ぜひ忌憚のないご意見を賜ればと思います。

お手元にこういうステッカーを置いてございます。これは、おとといに万博の誘致の部門から送ってまいりまして、地域のムーブメントを上げるために使ってほしいということ

でございますので、委員の皆さまには1枚ずつ、1種類1枚ずつお配りをさせていただきました。また、何か目に付くような場所に貼っていただけたらなというふうに思っております。

あと、実は昨日もう一つの部会のほうがございまして、その時には災害が、前回全体会の時は地震のお話ししたかと思うんですけれども、ほんとにその痛みがまだまだ実は続いておりまして、23軒の一部損壊とご報告したかと思うんですけれども、実際に被災証明というのを発行するというのを、今区役所でやっておりますけれども、もう既に130軒になるかと思うぐらいの申請が出てるような状況でございましたから、思ったよりも後々からそういう状況も出てきてるんだなというふうに、あらためて思っておるところでございます。

あと、先週には非常に大雨が降りまして、私どもも6日の夜なんかは、もう川の水位を地点ごとに観測しながらも、おちおちしてられへんというような状況でございましたけれども、幸い大阪というか、大阪市内については特に川の氾濫とかもございませんでしたが、ほんとに西日本一帯といたしまして、特に倉敷市でありますとか、あと愛媛県でありますとか、大変な被害になってるということで、心痛めてるところです。

その際に、ちょっと長くなって申し訳ないんですけれども、もともと私ども、防災という点では、地震というのは全然予告がなく来るもんですから、普段の備えが大事ですよといながら、ほんとにいざというときにどこまで命を助けられるのかどうかということ、いつも危機意識を持ってたんですね。大雨とか洪水とか台風とかというのは事前に予測がある程度できますので、これについては命まで取られることはほとんどないのではないかと実は思ってたんです。家の損壊とか、もちろんそういうのはあると、そういうふうに思ってたんですが、今回西日本の大雨で200人を超える方が命を落とされてるところで、避難意識といいますか、そういうところの、どう言ったらいいんですかね、刷り込みといいますか、そういうようなことがいかに難しいかということ、あらためて感じまして、防災に対する姿勢というところを、私どもとしてはもっともっと訴えていかないといけないと思いますし、市民・区民の方にご理解いただかないといけないなというふうなことを新たにした次第でございます。

今日は、子育て・やさしさ部会ということで、防災についてのご議論というのは直接ございませんが、そういうような話を昨日したところでございますので、共有させていただきたいと思います。

本日は、どうぞよろしく願いいたします。

長谷村総務課長

ありがとうございました。続きまして、木野議長からごあいさつをお願いいたします。

木野議長

こんばんは。今言われましたように、暑い中、被災された方、ほんとに大変だろうと思っております。ご関係の方がおられたらとお見舞い申し上げます。

防災のことはあまり関係はないということですが、常に防災のことはやっぱりこれからできなかったことを、いくらでも準備してやっていきたいなと思っております。

今日の会議は子育て・やさしさ部会ということでございますので、いつも私の運営にご協力いただきまして、時間内にいつも終わっておりますので、今日も闊達（かたつ）なご意見を頂きながら、時間内にきちっと終わりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

長谷村総務課長

ありがとうございました。

それでは、ここで委員の皆さまの本日の出欠のご報告をさせていただきます。ただいまの時点をもちまして、ご欠席の委員の方でございますけれども、奥田委員、方委員、城戸委員、久米委員、藤井委員、横田委員の6名の方が今現在こちらのほうにはお見えになっておりません。

したがって、本日の出席者数は11人となっております。17人中11名でございますので、2分の1以上の委員にご出席いただいておりますということをご報告いたします。

それでは、議題に入ってまいりたいと思います。以降の議事進行は、木野議長をお願いいたします。どうぞよろしく願いいたします。

木野議長

では、議事を進めたいと思いますが、議題に入る前に、岡委員と鎌田委員から前回の全体会議における追加意見があったようでございます。参考資料を見ていただきましたら、ずらっと1番から8番までございますが、これは机上配付されておりますけれども、この中

でちょっとまだ読んでおられない方もおられると思いますので、読んでいただいて、この中でまた追加の質問とかございましたら、後ほどお聞きしたいと思っております。ですから、もしよろしかったら一応ご覧いただきたいと思っております。

まずは議題のほうに進めたいと思っておりますので、本日の議題の1番、平成31年度旭区運営方針及び予算編成に向けた意見・提案についてということで、事務局よりご説明をお願いいたします。

松原企画調整担当課長

皆さまこんばんは。企画調整担当課長、松原と申します。私から説明させていただきます。座って説明させていただきます。

それでは、議題の1、平成31年度旭区運営方針策定及び予算編成に向けた意見・提案についてご説明いたします。前にパワーポイントのスライドを映しております。なかなかちょっと見にくいかと思っておりますけども、この運営方針を、資料の2を主に映してまいりたいと考えております。座席によっては、かなり見にくいかと思っておりますので、もしもどこの話をしてるかというのが分かりにくいということであれば、ちょっとご覧いただきまして、参考にさせていただければと考えております。

本日の部会は、31年度の運営方針及び予算要求の検討に当たりまして、区政会議の皆さまのご意見を頂きたく、30年度の運営方針につきましてあらためて簡単にご説明いたします。その後、事前にお送りいたしました意見票、ご回答も頂いております、ありがとうございます、後ほど戦略ごとに取り組内容や予算額、めざす状態に対してご意見を頂きたいと思っております。

本日は、子育て・やさしさ部会でございますので、運営方針の4つの経営課題のうち、1、子育て・教育環境の充実及び2、暮らしを守る福祉等の向上につきましてご意見を頂きたく思います。

資料の1、旭区将来ビジョン概要版をご覧ください。事前にお送りいたしましたA3の資料でございます。将来ビジョンにおきましては、2022年度に安心して住み続けられるあたたかいまち・旭区をめざしまして、安心して子育てできるまち、やさしさあふれるまち、活力あるまち、安全に暮らせるまちの4つのテーマを設定し、取組を進めることとしております。

それでは、資料の2、平成30年度旭区運営方針（概要版）をご覧いただきたいと思

ます。運営方針は、単年度の具体的な取組につきまして、区政会議の皆さまのご意見も伺いながら定めたものでございます。策定時に詳細をご説明しておりますので、本日はおさらいの意味を込めまして、簡単にご説明させていただきます。ページの2ページ、旭区がめざすこと、旭区の役割については、将来ビジョンと同じ方向性を記しておるところです。3ページ、重点的に取り組む主な経営課題では、4つの経営課題を設定しておりますが、経営課題それぞれが将来ビジョンの課題と対応しているものでございます。

さて、子育て・やさしさ部会の課題でございます経営課題の1・2は5ページ以降にございます。5ページ、経営課題の1、子育て・教育環境の充実でございます。この経営課題のもとに戦略を2つ設定しております。戦略1-1、子育て支援の充実では、めざす状態を、子育てに関する相談やサポートに満足している割合を、32年度までに60%以上としておりました。しかしながら、平成29年度の実績が62.7%と目標値を超えたため、32年度までの目標値を65%以上と変更したいと考えております。この点につきましても、後ほどご意見頂ければと思います。このめざす状態に向けまして、乳幼児とその保護者の健康を保つ支援に、例えばマタニティサロンの開催とかに290万1,000円、支援が必要な子ども・家庭へのサポートとして、子育てネットワーク（あさひキッズネット）開催等に200万2,000円、それから制度の周知・相談機能の充実に13万1,000円を予算計上しております。

続きまして、6ページ、戦略1-2、子どもへの教育支援でございます。この戦略1-2、子どもへの教育支援におきましては、めざす状態として、区内の10小学校区において、基礎学力の向上・学習習慣の定着が進んだと感じる学校数として、32年度に10校としております。このめざす状態におきまして、中学生のベーシックサポート事業に324万5,000円、小学生の基礎学力として、おさらい教室に490万円、子どもがたくましく生きる力をつける取組として「あさひ学び舎」事業に541万1,000円、こども食堂の支援に143万1,000円を予算計上しております。

続きまして、7ページ、経営課題の2でございます。経営課題の2、暮らしを守る福祉等の向上に戦略を2つ設定をしており、戦略2-1、健康寿命を延ばす取組では、めざす状態につきまして、健康意識の高まりを感じる区民の割合を31年度までに80%以上を目標にしております。めざす状態に向けまして、健康づくりの取組に、健康フェスタの開催等60万2,000円、高齢者がいきいきと暮らすための取組、百歳体操の交流会等の取組に39万4,000円を予算計上しております。

8 ページ、戦略 2 - 2、誰もが活躍できる場づくりのための取組では、めざす状態を、障がい者をサポートする仕組みが整っていると感じる区民の割合を、平成30年度までに50%以上、高齢者をサポートする仕組みが整っていると感じる区民の割合を30年度までに50%以上としておりましたが、29年度の実績がそれぞれ超えたため、目標値をそれぞれ65%以上と変更したいと考えております。めざす状態に向けまして、旭区バス運行としてあったかバスの補助事業につきまして770万円、福祉推進のための取組に、区役所・社会福祉協議会・地域包括支援センター・NPO法人との連携のネットワーク構築などに99万4,000円を予算計上しております。

本日お配りした資料に、追加資料で資料の2の参考として、運営方針の目標と対応するビジョンの目標を掲載しております。A4の横の資料でございます。ございますでしょうか。右肩、追加資料と書いたものでございます。基本的にビジョンの目標と沿うように、運営方針も作成しておるところでございますが、一部設定がないところとか、実績値が既に目標値を超えたものもありまして、検討が必要となってきております。この点について後ほどご意見を頂ければというふうに考えます。

本日は、31年度運営方針の作成やこれからの予算要求の参考にさせていただくために、この取組内容、予算額、めざす状態など、ビジョン達成に向けたご意見につきまして、ご意見頂きますように、よろしく願いいたします。

説明は以上でございます。

木野議長

ありがとうございました。それでは、ただいまから皆様のご意見を頂きたいと思えます。団体からご推薦いただいている委員は、団体を代表してのご意見、ご提案ですね。また、公募委員の方は、行政や地域とは異なった視点でのご提案をお願いしたいと思えます。また、簡潔に1人2分以内ということをお願いしたいと思えますけども、ただ、事前に意見票を提出されている方がありますので、資料が入ってましたですね。岡委員と鎌田委員で書いていただいておりますので、こちらのほうから説明していただきましょうか。岡委員からよろしいでしょうか。こちらの説明をしていただきながらご意見頂くということで、せっかく書いていただきましたから

岡委員

太子町の岡でございます。

一応見ながら、宿題と思って考えてきたんですけど、ちょっとずれてるところがあるかもしれないんですが、お許してください。

子育て支援のところでは、代表的には出産から絶え間ない個々への積極的なアプローチに力を入れていただきたいというのが希望で、いろいろな、これまでのあれを見たら、満足度はすごく上がってますよね、パーセントは。だから、すごく分かって使った人はいいじゃないと思ってらっしゃると思うんですね。だけど、きっと使ってらっしゃらない方も結構たくさんいらっしゃるのかなと思うので、その辺のところを出産したときからは、区役所はきっとつかんでらっしゃるので、そこからずっと続けて資料等も積極的に出していただけたらいいかなと思っております。

おさらい教室なんですけど、今、割と聞きましたところ、宿題したりとかちょっと分からないところを聞いたりとかという、割と補習的な内容かなとは思いますが、読んでおりましたら、小学校と連携してとあったので、連携することで、よりもう少し踏み込んだ能力アップにつながるんじゃないかなと。せっかく時間を設けてやっていただくんなら、そこまでやっていただけたらいいんじゃないかなと思っております。

予算なんですけれども、戦略1-1の と は、たしか減少して1-2は増加していると思うんですが、合っておりますか。それはどうしてそうなったんでしょうね。ちょっとその辺がよく分かっておりません。

それと、めざす状態に対してというところなんですけど、1-1で子育て支援のところですが、すごく実績は62.7%といいんですけども、じゃあ37%の中の方というのは、どこに問題を感じたのかなというのを、ふと思いました。結構意外と数字としては40%近くなので大きいから、その辺を見ていくと解決に近付くのかなという気もしております。

また、おさらい事業のところでは、利用者数の変化も出していただけたら、ただやっている、何人か来ておりますよじゃなくて、だいたいどのくらいの子が利用してるのかなと。だんだん増えることでほんとに必要な子がちゃんと来るようになるんじゃないのかなとか、そういうふうにも考えました。経営課題1に対してはそんなところですよ。

2のところなんですけれども、2-1で、健康づくりのところですが、健康寿命を延ばしたいというのは、みんな年配の方、私もいい年配にもなってますけども、話を聞くと、みんな元気でいたいという気持ちはすごく強いんですよ。だから、そういう意識が、より取り組む、どういうふうに取り組んだら、それを実現できるかというところなんですけど、

今のままの見た感じだと、何だかちょっと人数がもうそんなどんと伸びていくようじゃなくて、伸び悩みなんじゃないかなと、これだと。いきいき百歳体操にしても、中心となる人がいて、ビデオか何かないとできないし、そういう条件からいったら、今だいたい校下で2カ所ぐらいかなという計算だと思うんですね、二十何カ所でしたから。だから、そういうのはちょっとまだこれからどんどん伸びていくという要素は少ないんじゃないかなと。じゃあ旭区独特の課題とかってないのかしらというのが思ったところですよ。そんなところですが。

木野議長

ありがとうございました。非常にポイントをついたといいますか、いいご意見だと思うんですけど、どうでしょうかね、一つ一つお答えいただいてよろしいでしょうか。

まず、経営課題1のほうから予算も含めまして。

松原企画調整担当課長

失礼します。企画調整担当課長、松原です。

この運営方針の経営課題の1、戦略1-1、子育て支援の充実の予算の関係なんですが、前回ご説明をさせていただいた時には、この支援が必要な子ども・家庭へのサポートと、それから制度の周知・相談機能の充実というところに213万3,000円、「2,113」という数字が入っておりました。両方に「113」という数字が入っておりました。これがこのとを合わせてこの213万3,000円と「2,113」という数字やったんですけども、両方に書きますと、ダブルで予算があるように見えますので、具体的にこのサポートのところと、それから制度の周知のところを分けると、この200万2,000円と13万1,000円に分かれたというものでございまして、ちょっと分かりやすくするために書き改めたというところでございます。前回のちょっとまずかったというところで、申し訳ございませんでした。ご指摘ありがとうございました。

それから、戦略1-2、子どもへの教育支援の中学生の基礎学力定着支援につきましては、前回の資料については296万4,000円、「2,964」という数字が入っておりました。これが今回の資料につきましては324万5,000円ということで、若干上がっているということなんですが、これはほんとに非常に申し訳ございません。予算が最終的に査定をされ、反映させ漏れということで、今回正しい数字を書かせていただいたということでございま

す。誠に申し訳ございませんでした。ありがとうございました。以上です。

木野議長

ほかのところについてはいかがでしょうかね。

小山保健・子育て支援担当課長

約37%の方は満足していないというふうな、逆に回答だということですけど、どこに不満を感じてるのかというところだと思うんですけども、すみません、はっきりした分析はできておりません。想像するに、まずこの一番上に子育て支援、出産から絶え間ない個々への積極的なアプローチに力を入れていただきたいとありますけども、まずここから説明して、そこにつなげていきたいと思います。

実は、妊娠したときから、妊娠して母子手帳をもらいに来たときから、もう区役所との関係って始まるんですね。その時に保健師がもう全員と一人一人面談をして、その妊婦さんを支援していくんです。妊娠期後半になってきましたら、妊婦教室とかいうのも開いてまして、そこに来ていただいて、その妊婦さんに心構えとか、そういったことを教えさせていただいて、それだけではなくて、それだけでしたら、その教室に来られる方しかそういうことはいけませんので、全員に対してその後どうですかというふうな電話をしてアプローチもしてます。

いよいよ出産となったら、出産時の健診であったりとか、あとは全戸訪問、これは助産師さんにも手伝っていただいて、助産師さんかあるいは保健師さんで全員訪問してます。そこでちょっとまだ課題のあるお母さんがいらっしゃったら、もう手厚く何度もアプローチをしてフォローしてます。

あとは3歳児健診、これは区役所の保健センターの分館で健診してるんですけども、そのときもお困りごとないですかというふうな相談、そういった相談にも乗りますし、あと1歳半健診、あと3歳児健診、そういったタイミング、タイミングでいろんなフォローをします。

そのほか、各地域でされてる子育てサロン、そういった場にも職員の保育士が出向いて、お母さんの不安とか、そういったことも聞いて相談に乗ったりとか、そういったことで絶え間なく切れ目のない支援をやって、まだまだ足りないかも分からないですけども、それを目指して今頑張っています。

ということですので、62.7%という満足度というのは、その成果なのかなというふうに考えてますけども、37%の方が満足されてないというのは、支援が必要ない方もいらっしゃると思うんですね。自分のご両親と一緒に住んでたりとか、すぐに保育所にも入れたりとか、そういった形で、それほど支援なくても、もう十分自分でやっていける方とかも多くいらっしゃると思いますので、その方が37%だったらいいなというふうに考えています。

岡委員

個々の方へというのがすごく、人数とか地域でのだいたいの概略の人数とか、そういうのはだいたい教えていただけるかなと思うんですけども、個々の方へという何か会をするときでも、私たちがこの間も子育て交流会しましたら、大変少なくてショックを受けたんですけども、そういうのをしませと言っても、個々の方へのアプローチをしていかないと、全体に対してこんなんしますよでは、なかなか参加してもらえないので、それで、ここに個々の方へというのを入れさせていただいたんですけども。でも、必要ない方が40%近くいらっしゃるのなら、すごくうれしいことだと思いますけどね。

木野議長

じゃあ、よろしいですか。お答えのほう、できたら短くしていただいたほうが、ほかの方のご意見を聞けるとおもいますんでね。そうしましたら、鎌田さんのほうからお願いできますか。

鎌田副議長

子ども会の鎌田です。こんばんは。

では、私、すみません、夜中にちゃちゃっと書いて、読んで書いてしまったので、こんな状態になるとは思わなかったのですが、申し訳ないですけども、子育て・教育環境の充実のほうですけども、教育支援について、すごい年々内容は充実してきてると思います。私も今子育てしたいなと思うぐらい充実してるとは思うんですけども、実際に私、学校のほうで仕事をさせていただいてるんですけども、やはり親の意識が薄いのか、実際におさらい教室とか来られているお子さんというのは、別に必要じゃないんじゃないのっていうお子さんがやはり利用されております、実際のところ。本来、利用しなければ、この

子は利用したほうがいいんじゃないかなと思うお子さんのほうが利用されてないというのが現状だと思います。それ全てではないとは思いますが、私たちの目から見たらそんな気はするんです。

学校との連携もとられてるといのは、前回の時にもお聞きしたんですけれども、もうそれ以上に親御さんのほうに学校として踏み込むことができないのかな、もうちょっと踏み込んでほしいなという、なんか「……」とちょっともやもやとした気持ちもあるんですけれども、確かにいいことはされているんです。ほんとに私も先ほども言いましたけれども、もう一度子育てをしたいぐらい、今すごい充実してると思うんですけれども、でももう少し救ってあげたい、お子さんたちのほうに目を向けてあげられるような、そういう支援が必要じゃないかなというのが本音です。

それともう一個のほうですね。暮らしを守る福祉のほうですけれども、これもほんとに年々充実してると思うんですけれども、広報不足なのか、意識不足なのかちょっと分かりませんが、私の目から見たら、やはり区民センターとか区役所とか旭区全体での催し物とかはすごいあると思うんですけれども、各地域でやはりご年配の方がなかなか足を運ぶというのは難しいと思うので、各校下、各地域、自分の住んでるまちでやってもらえるような、何でしたっけ、何とか体操、百歳体操は個々でやられておりますけれども、そのようになんか公園にしても何にしても、やっぱりご年配の方が行きやすい環境というのをつくってあげていただきたいなと思います。

以上です。

木野議長

ありがとうございました。

そうしたら、始めのほうの学校との連携って何か具体的に進めるようなものがあるかどうかとか、お願いします。

松原企画調整担当課長

できるだけ簡潔にということでお答えします。

この間、いろいろ学校を回らせていただきまして、実際におさらい教室とか、どう使われているのかとかいうことをヒアリングさせていただいておりまして、各校かなり考えていただいております。ところが、何分強制ではございませんので、学校も行かせたいけど

も、行ってくれないとか非常に悩みながらされてるということでございます。

とはいえ、学校で設定の、例えば時間の設定、それから学年の設定、それからいかに勧誘するかも含めて、かなり連携がとれているかなと、学校のほうで主体的に考えていただいているものの、こちらができるだけサポートするというような形をとれているかなと思っています。ただ、おっしゃるとおり、まだまだ考えなければならないところがあると思いますので、今後も貴重なご意見として承りたいと思います。ありがとうございます。

木野議長

もう一つのほうはいかがですか。地域ごとにとというのは何か考えておられますか。

小山保健・子育て支援担当課長

保健・子育て支援担当の小山でございます。

確かに百歳体操は地域ごとですって、ただばらつきがあって、盛んな地域とあまり実施回数が多い地域もあるんですけども、その一つが実は新森地域が、エリアが広い割には1カ所しかなかったんですけども、実は最近、新森会館のほうで4月から実施していただいて、30人規模でかなりしっかりとした活動をしていただいています。ですから、百歳体操については、今後もいろんな地域で、もっと活発にしていきたいなというふうに考えています。

それとあと、その百歳体操のように各地域でそういったイベント等をということなんですけども、出前講座というのがありまして、もちろん保健師とかも要請があれば行かせていただいているんですけども、2週間ほど前にも千林のエール館のほうで、がんについての講座をしてほしいということで、そこに保健師が出向きまして、100人ぐらい来ていただいた、そんな講座やったんですけども、そこでがんについてのお話等、がん検診をぜひとも受けてくださいよというふうな、そんな講座をさせていただきました。ですから、そんな講座とかも活用しながら、地域に行って活動していければなというふうには考えております。

木野議長

ありがとうございました。

そうしましたら、そのほかの方でご意見ある方、挙手をお願いいただけますか。

はい、どうぞ。

隅田委員

隅田です。

今日31年度に向けての意見をということで、参考資料で2022年の将来ビジョンとこの30年度の部分をということですよ。やっぱり何ですかね、ちょっとまだなんか活動、どんな内容やったかというのは、この資料やとまだちょっと分かりづらいところがあるんですけど、これをもとに31年度どういう目標とかを立てたりとか32年度以降も含めて、どう見てたらいいのかなと考えたんですけど、この追加資料とかで配っていただいた資料2の参考というやつですか。この30年度の旭区の運営方針で、目標の年度がなんか32年度までにとか、31年度までにとか、30年度までにと、ばらつきがあるのは、どういう理由でそうなるのかということと。

あと、この目標の設定で現状満足してますかという質問のほうと、進んでますかと、昨年度とかと比較してどう感じますかという質問の仕方と2種類あるなと思って、そういう中でいろいろ、この質問はという質問の仕方が、その現状分かりやすいのかなということとか、例えばこの区内10の小学校で定着するんだと感じる点は、もう何年も10校、10校ときてるので、それがじゃあ中身どう変わったんかというのが分かりづらいので、これは目標の設定の仕方を何か工夫したほうがいいんじゃないかなと思って、例えばこれ、答える人って学校が答えるということで、校長先生が答えてるんかとか、じゃあ教師はどう感じてるんかとか、子どもはどう感じてるんかとか、保護者はどう感じてるんかというところが、うまく反映されてるんかどうかもよく分からないので。だから、今この資料で31年度を考えるので、それはそれでいいんですけど、32年度以降を考えようと思ったら、今後の31年度の目標の時に、今地域ごとに見たらどうかとか、いろんな意見がありましたけど、そういう目標の設定の仕方をいろいろ考えたほうがいいんじゃないかと思いました。以上です。

木野議長

目標の設定の仕方についてということですけど、こういうパーセントだけじゃなくてということですね。どなたか。

花田区長

この追加資料のほうに触れていただいて、実はあえてこれをお出ししたというのは、昨年度は旭区将来ビジョンというのを作りながら、運営方針というのを作りながらということで、ちょっと並行して別の動きになってたところがあります。

そういう中で、運営方針のほうは最終的に将来ビジョンに合わせて張り直したというところがありますので、将来ビジョンはこれは2022年を目指しながら、その途中の32年度の目標値というものに統一をしたんですが、運営方針のほうは、もともとのそれぞれの計画とかで目標値を持ってるものを、そのまま入れていたと、そういうことでちょっとちぐはぐになっています。

今回あえてこれを出したのは、今回ご意見を頂いたという形で統一したというふうに思ってる意図がまず一つです。もう一つは、その目標値の設定というのが、これは昨年度の数値でもって今年度のを決めるというのと、ちょっとタイムラグがありまして、もう一年前の数字でもって、次の年の目標を決めるもんですから、もう次の年になると達成してしまってたというのでも幾つかあるんですね。そういうものについては、翌年に向けては、だから、32年度までの目標でしたけれども、翌年に向けてもう少しやっぱり高い目標を設定する必要があるんじゃないかというようなことで、見直し案とかも出させていただいているという形です。

今、問いかけの仕方というのが違うんじゃないかというのがありまして、これにつきましては、もう少し意識をして整理をしないといけないなとは思いつつ、市政改革プランとかいろいろな区が横並びでやっていかないといけないものというのは、同じような聞き方になっているという部分と、区独自で知りたい部分とか、取っておきたい部分とかというのがあって、ちょっとそういう意味では、今委員がお感じになったような整合性が十分とれていないということになるかもしれません。ただ、そこについては、できるだけ今回頂いた意見を基に、31年度については、もう少し整理はできるんじゃないかなと思いますので、ご意見ありがとうございました。

あと、細かい小学校の10校の満足度なんですけど、これはちょっと具体的に結構苦労しながら取っておりますので、担当課長から説明させていただきます。

松原企画調整担当課長

この基礎学力が向上したかは、子どもが例えばですけども、小学校ですので、おさらい

教室をうちはやってるんですけど、おさらい教室で上がったというふうに、学力が上がったと確定できるのかと言われると、なかなかそれが難しく、効果測定に非常に悩んでおります。そこで今……。

花田区長

実際には悩んでるんですけど、各校ごとでやってくれてるんです。例えばある学校では、測定テストみたいなのをやって、何%点数が上がってるなというようなことを、一番進んでるところはそういう取り方をしてますし、ある学校では、担任の先生にどうですかと聞いて、例えば宿題とかを忘れなくなったよねみたいな、定性的な判断の中で成果があるよと言ってくださるようなところとかまちまちなんですけれども、各校は各校で工夫して取っています。ただ、私どもとして、こういう取り方で取って下さいというふうな形では今ないんですが、ちょっと苦労しながらやっておるところです。

ただ、いずれもこのおさらいがなかったら困るところは変わりありませんでした、ただ先ほど鎌田委員がおっしゃったように、ほんとに必要な方が来れてるのかというところの検証は、もっと突っ込んでやらないといけないということで、今ちょっと各校を回っているところです。ありがとうございます。

木野議長

よろしいでしょうか。では、ほかにどうぞ、いかがでしょうか。じゃあ、浅野委員、どうぞ。

浅野委員

浅野と申します。

先ほど鎌田委員のほうから子育てしてるときに、今の状態で私らは子どもを育てたいなと、ほんとにそういうのは私もそう思います。ほんとに充実してると思いますね。この間も、今年初めて中学校に入った方のお母さんに、勉強どうですかとか尋ねたんですけど、塾行くのもなんか学校でいろいろお勉強を放課後残ってるのって言ったら、いや、してないって。なんか塾行くのには、補助が出てるとかとお母さん言うてはったんですけど、たぶん補助があるけど、子どもに行ったらどうって尋ねたら、なんかもうやっぱり子どもが嫌と言う、あんまり行きたくないとか言うんですけど、やっぱりそこで親がもう少し

積極的に勉強を、補助が出るんやったら、私だったらもうどんどん行ってほしいなと思ったんですけど、今のお母さんは諦めが早いのか、もう少し突っ込んで勉強さそういう気持ちがないように、ちょっと受けたんですけど。

それともう一つ、このごろ学校では電話をかけても、何ていうんですか、電話は出られないとかいう、そういうのがあるんですかね、学校は朝早かったら。もしクラブ活動してて、朝早う出たときに、お友達と通学してるときに転んだりとかして、ちょっとけがしたとかあったときに、学校に家へ帰るんじゃなくて学校に電話しようと思っても、先生が出てこられてるんやけど、電話に出ないとか、出してもらえないとかいうこともあるので、そこら辺はどうなんだろうというお母さんもいてたんですけど、それをちょっと聞いてもらえませんかというて言っただけです。

それともう一つ、すみません。

木野議長

もう一つ、はい、どうぞ。

浅野委員

百歳体操ですけど、私のほうの地域では、年寄りの人はこの頃すごく積極的になって、初めは20名ぐらいだったんですが、今はもう健康を取り戻そうということで、35名、40名ぐらいになって、今度場所がちょっと狭くなったというぐらい健康を取り戻してきている感じになってきているので、大変うれしいことやなっております。

木野議長

はい、よく分かりました。では、2つ目のことで。

花田区長

まず1つ目のことについてちょっと簡単に。

実はバウチャーというのは、一定の所得制限とかはあるんですけども、だいたいの方は月1万円のバウチャーというのを使うことができます。それは、普通の塾だけではなくて、スポーツ施設、スポーツクラブだったりとか、あとダンスとかも使えたりとかするみたいなんですけれども、普通習い事というようなものが使えるようになっています。

あと、その中で、なかなかパウチャーの1万円だけでは、塾とか、そういう習い事というのは足が出てしまうということもありましたので、昨年度から旭塾という名前で、各中学校でその1万円ポッキリでやっていただける塾というのを、場所貸しをして民間の事業者さんにやってもらうというのを始めまして、より取っつきやすい塾というのができるようになっておりますので、ぜひちょっとその方には、またあらためてお勧めいただけたらなというのが1つです。それは学校の先生とかに言っていただいたら、すぐに分かりますので。

もう一つが、学校の電話の件です。これにつきましては、この間、学校の先生が非常に働き方改革ということで、どんどん体を壊されたり精神を壊されたりとかというのが相次いでおりまして、これは全国的なお話でもあるんですけども、学校の先生の働き方改革というのが問題になっています。

その中で、大阪市の教育委員会が、時間外については一旦もう電話を取らないと。というのは非常に今おっしゃったようなこともあるかもしれませんが、モンスターペアレンツといわれるような方々が、もう延々と2時間も3時間も電話をして放さない。夜中であつたりとかまでかかったりとか、朝も朝から電話してきて授業の時間まで引っ張ったりとか、そういうのがあると。なので、時間というのを区切らせてもらうということで、留守電機能のない状態の時間の設定を、これは基本時間はありまして、何時から何時だったか、とにかく一定教育委員会で統一はしているんですが、各学校で例えばですけども、体育祭のときだったりとか、いろんな行事のときで、早くからやったほうがいいとかということについては、運用をなさっているというふうに聞いておりますので、そのクラブの話なんかについても、学校の運用の中でそういう、より早くからクラブとしてやるのであればできると思います。

ただ、クラブにつきましても、クラブ活動と学業の両立とか、家庭生活の両立という中で、今非常に制限的にやるようにという指針が、もう出たのか間もなく出るのかと、そういうタイミングですので、早朝からのクラブみたいなことというのも、一定制限が掛かると思います。以上です。

木野議長

ありがとうございました。

では、ほか、いかがでしょうか。ございませんか。時間も限られてますので、じゃあも

う順番に名前を挙げさせていただいて、あれば言わせていただいて、なければもうなしということにしましょうか。よろしいでしょうか。

では、井上委員から。

井上委員

高殿の井上です。正直言って分かりにくいです。ここに書かれてる課題はこれで非常に結構なんですけども、この予算が適当なのかどうか、これはちょっと正直言って分かりません。まず、旭区の1年間の全体予算が幾らで、各項目についてこの3年間比較すると推移はこうなっていますというような表でもあれば分かりやすいんですけども、この中で健康づくり60万2,000、これがほんとうに適当なのか、正直言って私なんかには分かりません。だから、もう少し資料としては分かりやすい、トータルの予算の中の幾らなのか、この3年ぐらいのこの項目の予算の推移はどうなっているのかというようなことが示されてたら、もう少し分かりやすい。

もう一つは、目標ですけども、随分高い目標になってるなというのは印象です。この目標も分かりません。これが高いのか低いのか、例年少しずつ上げてきてるといことなんでしょうけども、ほんまにこんなことでいけるのかなと思ったら、ちょっと心配したりします。

例えばの例ですけども、福祉推進のための取組のところで、右側のめざす状態で、高齢者サポートをする取組で、が整っていると感じる区民の割合が28年は43.5、29年は63.8とかという、こういうパーセントになって、ほんまにこんな、それを30年度は65%ですか、ほんまに高齢者に対するこういう高いパーセントの評価が得られてんのかなという、私の実感では、必ずしもそうではないんじゃないかと。どなたが答えられてるのか知りませんが、必ずしもこうではないんじゃないかなという気はしますね。

だから、こういう目標値の設定なり、去年、おととしのこのアンケート結果による数値というのは正確なのかなという、ちょっとそんな疑問を持ちます。

以上です。

木野議長

分かりました。ほな、お答えは一応まとめてということにさせてもらいましょうか。

では、伊吹委員、どうぞ。

伊吹委員

女性会の伊吹です。

ちょっと昨年度から体調を崩しまして、ようやくなんか復帰できたので、ちょっと浦島太郎的な感覚であります。

先ほど百歳体操のこととかおっしゃってましたけれども、女性会で去年1年間学習委員長、1年というか、2年間したんですけれども、させていただいた時に、ほんとに健康に対するものは受講者がすごく多くなるんですね。だから、すごくやっぱり関心は皆さんおありになるということ、すごく感じてますけれども、ただ、身近でそれができない。今既に百歳体操のグループも幾つかありますけれども、なんかそれが1つの固まりになってしまって、新入者がそこには入れないという、そういう現状もあるという感じの話は聞いております。

だから、できたらもうそういった枠組みのない、しがらみのない、そういったものをしていただけたら、すごくいいんじゃないかなという点と、あとそういった百歳体操にしても知らない人がいっぱいいらっしゃるんですね。それが何なのかということ。だからやっぱりそういったことも区の広報とかでしっかりとアピールしていただいて、参加者を募っていただけたらすごくいいんじゃないかなというふうには感じております。

以上です。

木野議長

ありがとうございました。そうしたら次、尾登委員、よろしいですか。

尾登委員

太子橋の尾登でございます。

今いろいろ内容を見せていただいて、随分充実した、子どもたちには恵まれた時代を迎え、また高齢者もすごく楽しいときを時間を用意していただいているなと思っております。私自身は、ここ10年余り、朝、児童の登校時間に見守りをさせていただいております、やはりあいさつをしない子ども、「おはよう」言ってもうつむいてとぼとぼ来る子ども、ちょっとその数がだいたい毎年横ばいか、向上はしてないのに、気には掛かっております。それに併せて保護者の方もごあいさつしていただくという意味で、私たちから声を掛けます

けれども、ツンとした感じで、この間の地震の折も動揺はなさったかと思うんですけど、特にそういうときは、親御さんとしての子どもへの心配りや見守り隊に対しての思いいうのもお伝えいただく勉強も、お母さんたちしていただきたいなど。いろんな私は果たしてその時代にやっていたかいうと、ちょっと自信はございませんけれど、そういうことを感じております。

それと、高齢者の健康のことにつきましては、随分高齢者の皆さんも健康への関心が高く、先日の太子橋のほうで桜まつりをしました折に、体操を私たちは個人的に習ってる先生がご奉仕で、参加された皆さんに「皆さん立ちましょう」という感じで無理強いせずにお誘いくださいましたら、高齢のほんとに車椅子に座っておられる方までが手足を動かし、楽しそうに運動なさってられたというのが私の印象に残っておりまして、ああ、やはり90に近いご高齢の方もいらしたとは思いますが、やっぱりこうした場所に出向いていただいて、こうしたことを経験、見ていただいて参加いただくというのは、とてもいいことだなということを感じました。

それと、今回この地震とはちょっと関係、触れてはいけないのかも分かりませんが、お一人でお住まいをされていた方々のその時の心情を思いますと、民生委員さんとか地域の方々が、急いで大丈夫かということをお確かめいただいたと聞いておりますけれども、どうしていらっしゃったのかなというところまで、今後の課題としてやはり考えていかなければいけないのではないかなと私もお世話になる年齢になってきましたので、感じております。以上です。

木野議長

ありがとうございました。では、岸本委員、お願いします。簡潔で結構ですよ。

岸本 新森地区の岸本です。よろしくをお願いします。

私はもう今この予算に関して、ちょっと直接のあれが意見はないんですけども、前回私、2月の23日にちょっと意見として子育て・やさしさ部会の追加意見として出させていただいたと思うんですけど、それに対する役所のご回答というんか、こういう形でやるという形のもんが僕はちょっとお聞きさせていただいてないで、それが少しあればありがたいなど。

ただ、今ほんとうに努力なさっておられることは、もう重々よく分かるんですけど、た

またま私、民生委員させていただいて、非常にいろんな形で役が増えるというか、そういう意味において、ちょっと何かいろいろな活動の場を、ちょっと減らしていただけたらありがたいかなというふうに思っております。以上です。

木野議長

ありがとうございました。では、ちょっと調べておいていただいて……。

花田区長

議長、ちょっとお調べて……。

木野議長

そうですね、ちょっと確認だけさせてもらいましょう。

そうしたら、こちらで、中野委員、お願いします。

中野委員

中野です。ちょっといろいろお話が出てきたんであれなんですけども、まず平成30年度のこの旭区運営方針目標値についてということで、戦略1 - 2ですね。これは区内10小学校のところの目標値で10校ということは、全校の学力向上を目指すということで理解したらよろしいですか。分かりました。

そのいろいろな取組なんですけども、結局は、僕らは保護者の一人として、ほんでまた区役所のほうからは、先生方の意見を聞いていただけるといってこなんですけど、やっぱりまたこの取組については、学校長、また各先生方と意見がやっぱりちょっと違うと思うんですよ。先生方はもちろん学校教育のこの時限目、この時間帯でやっぱり子どもに、言うたら学力を向上させるように努力されてると思うんですけども、学力向上させるためには、そうしたら、このおさらいしたり、いろんな学び舎という、いろんなことをしないと駄目なのかというたら、そうでもなくて、そこはできたら先生方がやっぱり付いてきてない子がいてるよという、この子たちにやってもらいたいという意見がもらえたら、なおいいのかなと。その子たちがここへ参加できたら、よりいいのかなというふうに思ったんですけども。

例えば、ちょっと極端な話なんですけど、小学校5時限目、6時限目、そうしたらこの

区役所が担当するところを7時限目にして、うまく学校と協力して、もうその授業の中の一つみたいな感じで入っていったら、これはどうか分からないですけど、区担当の教育委員会の区長さんとかが判断していけるかどうか分からないですけど、極端な形でいえば、もうそういうふうになんかと思った次第です。

あと、ちょっと思ったのは、この教育支援ということなんですけど、先日の地震がありまして、やっぱりこのPTAとして一番気になったのは、各校の外壁ですよ。子どもがちょっと被害に遭ったということで、PTAのほうも一応ちょっと見たりして、いろんな情報を集めたりしたんですけど、そうしたらひびが入った、またそのときの補修費用をどうすんねんというふうなことも話が出てまして、できたら、その辺の支援という窓口もあれば助かるなというふうには思いました。

すいません、以上です。

木野議長

ありがとうございました。では、水戸岡委員、お願いします。

水戸岡委員

高殿南の水戸岡といいます。

1つ、こういう方法はできないのかなということをお願いしたいんですが、健康寿命を延ばす取組というところに、歯科医師による訪問健康を無料で実施というところがあります。これ非常にいいことなんですけども、東京のある区で在宅医療というものがだいぶ推進されて、当の医療を受ける方の家族の方も非常に喜んでいるのを、私はテレビで見ました。そういった方向へ向けて、旭区でできないものかというのが1つあります。

家において、やはり病院で亡くなるよりも、家で亡くなりたいというような、そういう方が多いというふうに聞いておりますけども、家の中で安心して医療を受けられるというふうな方法をとっていただけないものかということをお願ひしたいと思ひます。

もう一つ、子育ての支援の充実というところで、力を合わせた旭区の子育てを支えていくということのところ、強化するということを書かれていますけども、全ての子どもが健やかに成長し、自らの可能性を最大限発揮できるというふうに、そういうことを書かれていますけども、今の子どもさんが私のほうでは遊び場がほとんどありません。近所の方がよく苦情をくださいます。子どもさんがボール投げをして、うちのどこやらを壊し

たとか、ボールばかり投げられて壁に投げられて困ってるんだとか、そういう苦情をよく聞いて、私もそこのご家庭へ行って事情を話しして、ここは警察にも相談しましたら、道路は車が通るとこ、人が通るとこだから、遊び場じゃないんだということで、そこでは遊んでは困るということが、警察の言い分です。

それから、高殿南では、小さい公園はありますけども、旭公園で遊びたいと思っても、あの旭公園は高殿のほうでなかったら使えないと。高殿南は、あそこの旭公園を使おうとすると、父兄と一緒に行かなかつたら使えないという規則ができてるそうですね。これも何というかおかしな話ですね、すぐそばにある上に何で高殿南と高殿と分けて、そんな大きな公園があるのに使えないのかと。私らが子どもの時には伸び伸びと学校にそんなに健康というような面で、体操とかそんなものは教わったもんじゃないですけど、各家庭へ帰っているんなことをしているんなことで人間関係をつくっていった覚えたものです。

今はなんか親がああしてこうしてというふうな、手を差し伸べていかなかつたらできないような方向付けをしてしまってるんじゃないかと私は思ってるんです。子どもは自然に遊び場で何も遊具がなくても広場さえあれば、勝手に面白い遊びを勝手に喜んでしてるんです。自分で見付けていこうとする、そういう能力というものがあるにもかかわらず、それをもう閉じてしまってるような、そういう気配を感じます。そういったところでも、もっと子どもの遊び場、自由に遊べるようなところも提供していただけるような方法が、私は未来の子どもというのに対して伸び伸びといろんなものも能力を発揮できる大人になっていくんじゃないかということも感じます。

以上です。よろしく申し上げます。

木野議長

ありがとうございました。では、横田委員、お願いします。

横田委員

公衆衛生協会から来ました横田といたします。

私、公衆衛生協会なんですけども、薬剤師会の代表として入らせていただいているんですね。ここのところ経済的に厳しさが、厳しくなっているせいでしょうか、生活保護の方が結構増えてきてるんです。だから、その経済の厳しい中で、子どもさんたち、教育の支援されるというのは、必要な方に届いてないところがあるというのも、1つあるかと思

うんですけど、その辺、経済的に厳しい方にも支援が十分に届くように、いろんな心配りも必要だと思うんですけども、していただけるといいなと思います。

生活保護になられた方なんですけれども、思いもいろいろあって、きっと周りにもあまり言いたくないというのもおありだと思うんですけども、ちょっと薬局で困ってることが、生活保護に初めてなられて、今まで来られてた方が保険が替わって来られたときに、いつからなのというのが分からなくて、私たち請求するときに、月まとめで請求するんですけども、生活保護というのは、申請した時点から生活保護ですね、さかのぼって生活保護になるかどうかを決めて、生活保護になるならば、その申請した時点でさかのぼって生活保護という扱いですよ。

その審査というのかな、それされてる間、申し込んでこられた時点で、できたら保険が替わるかもしれないというのは、かかっている医療機関に対して言っていただけるようなアドバイスを、その方々にしていただけるとありがたいです。言いたくないという、その方たちの気持ちも分かるんですけども、私たちの手間だけで申し上げて恥ずかしい面もあるんですけども、請求先が替わるなら、替わったところへ正確な請求をしたいもので、違う請求先にしてしまうと、また帰ってきて後の事務手続が結構煩わしいんです。

だから、その申請された方には、保険は替わる可能性があるというのを、言っておいていただけると、申し出ていただけるとありがたいです。お願いします。

木野議長

よく分かりました。

別に申請しなあかんよと言ってもらったらいいわけですよ。

こうやってずっとたくさんご意見頂きました。全部お答えしていただくのは、まず無理やと思うんですけども、幾つか選んでいただいて、ここで今、先ほどありましたように公園の使い方とか、ちょっとやっぱりすっきりしないことは、きちっとしておいたほうがいいかなと思うんですけど、じゃあ、区長さんからでもよろしいですか。

花田区長

先ほどの公園の使い方というのがあったと思いますけれども、実は、旭グラウンドを高殿南の子が使ってはいけないのではなくて、小学生は基本的に校区から出てはいけないというのがあるんです。なので、結果としてそういうことになっているのであって、それは

ただ、学校での決まりでございますので、今高殿さんと高殿南さん、もともと一緒の校区だったというのもあるので、一定学校で決まりとして、ここまで行ってもいいよということにすれば可能ではないかと思うのが一つです。

もう一つは、実はその学校以外の遊び場として、旭区では3カ所の少し大きめの公園を選びまして、ボール遊びができるようにということで、ちょっと3つしかできなかったんですけれども、そういうしつらえをして、できるだけ子どもたちが伸び伸び遊べるようにというようなことも、今取り組んでいるところです。

もう一つは、それぞれの学校のグラウンドというのは、夕方の5時でしたっけ6時でしたっけ、までは子どもたちは使えるようになっていきますので、そこはボールとか何を使っても大丈夫という状況ではあります。なので、ちょっと道とかで遊んでる子どもを見たら、危ないのでやっぱり注意をしていただきたいと思います。

あと何かありましたかね。

木野議長

いっぱいあると思うんですけど、運営方針についてということで、どうしても今お答えしていただかないといけないことなんですけど、例えば一番初めの話なんですけど、予算がこれがほんとにいいのかどうか分からないという意見もあったり、私もそうですし……。

花田区長

予算がいいかどうかというところは、もともと分かりにくいと思いますし、去年予算を作るときに、前年度との比較等でご提示はしておるところなんですけれども、その予算もくくり方がいろいろありますので、くくり方を変えると、またなかなか比較もできにくいというところはあるかと思いますが、どうせやったらこれよりもこっちのほうに予算使ってくれへんかみたいなニュアンスのことが頂ければ、例えばこの100万円は90万にすべきだとかではなくて、そのようなご意見を頂ければと思ってお出ししております。

木野議長

もうだいぶ時間が過ぎてますので、私もなんか意見言いたいんですけど、よろしいですか。

いや、ほんとに先ほどから言われてるのもそのとおりやと思うんですけども、目標値というのがパーセントで出まして、がくっと上がってきたから、はいじゃあちょっと上げましょかというのは、すごく何ていいますかね、安易な設定ですよ。10%上がったのはどういう意味なのかというのを、ちょっと私たちには分かりません。なんかアンケート、じゃもういっぱい返してもらって、ああ、上がった上がったというだけで、それだけではないと思うんですよ。もちろんそれがなかったら、やっぱり客観的な評価がないから、またどこかから言われたらいかんと思うんですけど、せっかく旭区でやってるのに、旭区の特徴は何なんだ、旭区だからこういうことができたんだというのを、やっぱり出していただきたいなと思いますね。

例えば私が思ってる子育てね。ほんとに充実してきてます、もう全ての面ではね。充実してきてるのに、なぜこういう問題が出てくるのかということをやっぴり考えないといけない。

私も医師会から来てますけど、医師会では高齢者の施策は山ほど来てます、医師会には。在宅とか介護との連携とか、ところが子どもに関しては全く医師会には何も来てないです。薬剤師会もそうでしょう、歯科医師会もそうだと思うんです。ですから、やっぱりそういうところも、だいたい補助金事業ですから、補助金が下りてきたからそうなるんでしょうけど、別段お金が欲しいわけじゃなくて、いわゆる医師会とか歯科医師会、薬剤師会、三師会が子どもにどう関わるかというようなことも、ほかの区ではあまりないと思うんですよ。旭区は幸いなことに、ネットワークがあって、関わりたいという人が何人かいるんです。ですから、その人たちをやっぴりきちっと出して実績として入れてもらったほうが私はいいかなと思います。

そういう意味で、ちょっとパーセントがあまりにもちょっと安易なところで出てますよね。その辺はまた今後で結構ですけど、ちょっとまた自己評価されるときに出していただいたらいいかなと思います。

井上委員

関連。

木野議長

どうぞ。

井上委員

高殿の井上です。

先ほどもちょっと目標値は高くてという話をちょっとしたんですけども、今、木野先生もおっしゃっていたので、例えば健康問題、ここでいうと7ページですが、健康意識の高まりを感じる区民の割合で、28年度は62.3%であった。29年度は実績70.5%であった。31年度までに80%以上に、非常に高い数値を上げておられる。ところが、健康診断を受けておられる方の率は幾らかいうたら二十数%なんです。これは間違いなく実績、数字として出てるんですね。

じゃあ、健康意識の高まりが70%あって、健康診断を受けてる方が二十数%、これは矛盾してると思うんです。だから、こういう意味でも、ちょっとこの目標数値というのは、ちょっとほんまかなと思ったりするのが、その辺で私も思ったんですけどね。

ついでに言いますと、健康診断を受けられる方の率をどう高めるのかということも、もう少し具体的に、区として提案をしていただければありがたいかなというふうに思います。以上です。

木野議長

ありがとうございます。

なかなか難しいということはよく分かるんですけどね。やっぱり検診率を上げたいというのは誰でも思ってるんですけどね、なかなか上がらない。そこは日本中全てですからね。だから、それを施策としてどうされるかというのは、ちょっとよく分かりませんが、何か。またどうしましょう、今でなくてもいいですよ、こういう意見があったということだけ、ちょっと残してもらったら。

はい、どうぞ。

花田区長

今、特定健診にしても、がん検診にしても低い率と言われてるんですけども、全区民に対してということなので、例えば私が、今隣の区民で、私にも実は乳がん検診とか来るんですよ。でも、それがベースになってて、私は乳がん検診を職場で受けています。でも、それは外れてるんです。だから、仕事をしてる人というのは、だいたいたぶん職場で健診

を受けますよね。受けてはいるんだけど、数には上がってこないという、ちょっとジレンマがありまして、その率をどこまで上げると、全体として100%に近くなるのかというところが、今のいろんな保険制度が縦割りになっているところで見えないというところがあるんです。大変申し訳ないと。

ただ、100%でないことは間違いありませんので、非常に低く見えるんですけども、実際に60歳、65歳までの人というのは、かなりの割合で働いてまして、そこで健診を受けてるところは反映されていないという実情がございます。

木野議長

できれば、そういうところも含めて、じゃあ、旭区やったらこうやってできるじゃないかというのを、実態を、できるじゃないかというようなことがあればいいですね。

では、ほかはよろしいですかね。じゃあ、ご意見ということでまた整理していただいて、参考にしていただければと思います。

そうしましたら、次の議題の2で、学習会につきまして、事務局より説明をお願いします。

松原企画調整担当課長

失礼します。資料の3、A4の横です。旭区区政会議学習会（案）というのをご覧ください。ございますでしょうか。

区政会議の委員の皆さんに、できるだけ区政について知っていただくということを目的に実施したいと考えておりまして、30年度につきましては、運営方針に関わる区の事業にご参加いただきまして、区の取組に対する理解を深めていただくことを、学習会の一環と位置付けて、区政へのフィードバック、ご意見や運営方針に対する評価につなげることを目的として実施したいと思います。

左側に、平成30年8月から12月実施予定の事業を候補ということ、あくまでも案ということで挙げさせていただいておりまして、自由に参加いただける事業、右側に事前調整が必要な事業としております。例えば、8月4日、旭区幼稚園・保育園・保育所情報フェアというのを開催しまして、これは開催時間が決まって幅がありますので、この時間についてもいいというような形で視察といいますか、していただくような形で実施してはどうかということ。

それから、右側の子育て支援事業や学習支援事業につきましては、子育てサロンとかまちづくりサロンとか、場所、学校であるとか、場所と時間帯がかなり制限される、人数が制限されるものですから、ちょっと事前調整が必要かと思しますので、ここには事前調整が必要なものとして考えております。

今現在候補として挙げているのは、こういう事業でございまして、平成31年1月から3月の実施予定の事業につきましては、下に子どもフェスティバル以下挙げておりますが、これも候補としてどうかなというふうに考えております。

今はあくまでも案として挙げさせていただきまして、この方向でいいのではないかとということであれば、あらためてこちらからご案内を差し上げまして、委員の方にお越しただければというふうに考えております。

説明は以上でございます。

木野議長

何かご質問とかございませんか。どうぞ。

隅田委員

ちょっとこのご提案の意味がよく理解できなかったんですけど、この行事に参加を呼び掛けることを学習会として位置付けるということなんですか。

松原企画調整担当課長

説明不足で申し訳ございません。

区役所が実施しているもの、もしくは関わって実施しているものにつきまして、なかなか行ってらっしゃる方もたくさんいらっしゃるというのも承知はしているところなんですけど、なかなか参加の機会がないという委員の方もいらっしゃいますので、こういった取組を見ていただきまして、それについて感想、意見であるとかを、後日頂いて、後ほどのこれからの事業に生かしたいということで、委員の方にこの案内を差し上げて、見に行っていて、それでどうやったか、もうちょっとこうしたらいいんじゃないかとか、こういうところを伸ばしたらいいんじゃないかとか、いろんな意見を頂くことを目的にしたいということが趣旨でございます。

隅田委員

趣旨は理解しましたが、学習会という言い方は、ちょっとなんかピンと来ない。

木野議長

だから、昨年度ね、下に参考と書いてありますよね。第1回は非常に区長さんから学習というか、教えていただいて、ああ、これはいいなと思って学習、これから頑張るぞと思ったんですよね。2番目もできる方が行ったらいいということで、これもよかったと思うんですが、3番目はもちろんシンポジウム。すごくいい取組だと思うんですけど、その後、どうなったのというのが全然分からないし、今回になってきたら、先ほど隅田委員が言われたように、さあ、みんなで行って見学して何を学習するのかなというのが、ちょっとだんだんぼけてきてるような気がするんですけど、ちょっとその辺は、もう一回修正されたほうがいいんじゃないですかね、学習会という意味では。

花田区長

もともと学習会はどんなことがいいですかというところで、基本は防災のお話とかがありまして、少しこの間は、うちの担当からさせていただいた上で、民間のそういう大学の先生とかに来てもらうというのがペンディングになっておりますので、それは3月にやるのかなと思っています。

それ以外のあんまり詳しい要請というのは特になかったので、じゃあどうしようというところで、去年からの委員さんですので、新たなもし例えばニーズがあれば、こんなことしてほしいと言っていたらあれなんですけど、やっぱりまず行っていただいて見ていただいて、その事業がほんとに、この字面で見たりとか広報紙で見たりとかでは分からなかったこととかが、またご意見として頂けるということが大事なんじゃないかなと思って、あえてもちろんそれぞれのお役で区民まつりなんかはご出席なさる方が多いのは十分分かっておりますが、全然行ったことがないという方もいらっしゃるわけですから、ぜひご参加いただいた上で、この区政会議に臨んでいただきたいという、視察会みたいなイメージで今年度はやりましょうかということにしたんですが、それもだから、あくまでも案ですから、ここでご意見を頂いて、いやいや、去年みたいに今度はこういうテーマでやってくれよというのは、例えば予算の策定の仕方とか、そういうようなことだったりとか、何でもいいんですけども、やってくれよということがあれば、もちろんやらせていただ

きますので、もう頂いていた中では、このメンバーから頂いていた中では、防災の専門家による講演会以外は積み残しが無いという理解だったので、こうなっております。

木野議長

ちょっとじっくりしないなという感じが。というのは、ほんと、学習会しますから、こういうテーマを募集しますと言われたら幾らでも書くんですけどね、これがポンと出てきたら、なんか情報提供されてんのんか、これを評価せえと言われてるのんか。じゃあ評価じゃないですよ。情報提供とするならば、もっとほかにも情報提供することがいっぱいあるんじゃないかなと私は思うんですよ。

花田区長

申し訳ありません。情報提供という意味ではなくて、私どもでかなりお金を使ってやっ
てる分なので、評価をしてほしいということです。

木野議長

やっぱり評価ですか。

花田区長

はい、評価です。これは私どものほうが予算を使って、実行というところにも関わって
いる、人手も使ってという。なので、主催をしている、もしくは実行委員会の主たるメン
バーとして関わってるという事業を挙げております。本来であれば、もう少し早い段階で
城北公園フェアでありますとか、幾つかの事業がもう既に済んでるんですけども、そう
いうものも本来であれば入れるべきであるような事業だと思っています。

木野議長

ちょっと私ばかりしゃべっていかんのですけどね、今そうやって評価と言われるのな
らば、どのぐらいの予算がつぎ込まれてて、それでどうなのかという評価やったら、区政
会議の委員としてやる意義はあると思うんですよ。ところが、何もなしにパッと行って
みて、まあまあやっってはりませぬというような評価やったら、区政会議の委員のちょっと意味
が私は薄れるんじゃないかなと思うんです。

ですから、ぜひこれを評価するというのも学習の一つやと言われるならば、もっと基礎データを出してもらって、ほんとに有意義なこれになってるのか。だけど、これはもう以前からやられてることだし、今ここでこんなん要らんと言うて、区政会議で言うてしまったら大変なことになりますよね。だから、ちょっと何か趣旨がすごく僕は学習会としては、何かちょっと中途半端かなと思います。

花田区長

あくまでも案ですので。

木野議長

でしょう。

花田区長

これがもしゴーということになれば、おっしゃるようにどのぐらいの人手がかかってどのぐらいの予算がかかってる事業ですよということも含めて評価を頂くということになるかと思いますがけれども、それ以外に、去年みたいな形でやるべきテーマがあれば、ここで挙げていただくという、そういう趣旨でございますので、私どもが今頂いてる中では、もう積み残しはこの防災講演会以外はないという理解なんです。

木野議長

いかがですかね。私ばっか言うたらいかんけど。

浅野委員

これは旭区スポーツフェスティバルというのは、私は結構毎年参加させてもらってますよね。お年寄りから若い人までリレーとかもあるんですけど、結構楽しいんです。

木野議長

いや、楽しいと思います。

浅野委員

参加すれば楽しい。見るだけやっただけ、参加するということのほうがすごく楽しいです。お年寄りから若い子までこういう……。

木野議長

いや、楽しんでおられると思いますし、それを評価しますからね。

浅野委員

それと、城北公園フェアですかね、ビールまつりとか、あれも参加させてもらったんですけど、あれは予算って黒字ですか。もうかってますか。

花田区長

もうかってるかと言われたら、区役所として予算を今400万ぐらい使ってるんですね。出展料とかそんなのがあって、実際に出展してるお店の方とか、もうからないとたぶん来ないと思いますから、もうかってると思います。

浅野委員

私らもビール、地ビールを売ったほうなんですけど。

花田区長

どうでしたか。

浅野委員 14樽売ったんですけど、去年よりかは多く売れたんですけど、協力はしてると思います。ああいうのも楽しいと思います。

花田区長

そうよね、お店の団結力の基になったりしますよね、このイベントをやることで。あと地域のにぎわいだったりとかいうことも……。

浅野委員

それ以上に、もう少し城北公園をもっといろんな繁栄していったらなと、もったいない

なと思うんですけど、城北公園自体がね。きれいなとこやし。

木野議長

では、この学習会について何か、鎌田さん、何かご意見、よろしいですか。

鎌田副議長

鎌田です。私は区民まつりにしても、スポーツフェスティバルにしても内情を理解するほうなので、あまり意見を言うべきではないのかなとは思ってるんですけども、個人的にはもう少しこの2つに関しましては予算を上げていただきたいというのがお願いです。どうしてもこの区民まつりにしてもスポーツフェスティバルにしても、旭区民がほんとにコミュニティーがもっとすごい活性化するというか、地域を挙げての対抗というのもありますし、参加しなくても見るだけでもすごいと思うんですよ。

区民まつりにしても、あれだけの人が足を運んでくださるというのは、やはりあれは赤字にはなってはいけないと思ってますので、ぜひ予算のほうをちょっと上げていただきたいというのが、私の個人的意見です。すみません。

木野議長

では、提案していただいているわけですから、これも別にこれに参加したりきちっと評価するというのは、すごく大事なことなんで、別に反対するつもりはないんですけどね。ただ、もう一つまたこういうことも勉強したいというのがあれば、まだこれからでも……。

花田区長

言っていただいたらどうですか。やりますよ。

木野議長

どうぞ。

隅田委員

何度か、ネットワークの、この資料の8ページのこのNPOとかのネットワークづくりの件でここで意見させていただいて、結構市民協働の方からお電話頂いて、いろいろお

話しして、じゃあ1回聞きにきますとかと言ってくれるんですけど、その後来られたことなく、それが2～3回続いているんですけど、だから、たぶんいろいろ考えて、どうしていいか悩んではいると思うんで、だから逆にそういうテーマを学習会というか、なんかしながらうまく巻き込んでいけるような、なんかバンと学習会して参加というよりも、じゃあどんな学習会を作ってどんなネットワークをしていったらいいんかみたいな、ちょっと戦略的にというか、言う機会にできたらいいかなと思いました。

花田区長

それはどこの部分ですか。

隅田委員

この8ページ、8のこの福祉推進のための取組で……。

花田区長

これは市民協働じゃないです。

隅田委員

ああ、保健福祉ですか。

杉原保健福祉課長

保健福祉課長、杉原です。

ご意見ありがとうございます。実際のところは、委員おっしゃるように、これをどういった形で進めるのか、あるいはこの前の区政会議でも申しあげましたけども、どういったメンバーを集めていったらいいのかというのは、今まさに担当内で検討中でありまして、そういうネットワークを作る立ち上げの吉書(きっしょ)とか、あるいはそのメンバーをどう選んでいったらいいのかというのを、皆さんのちょっとご意見とか頂きたいなと思ってたところでした。またちょうど隅田委員のご提案の内容でもありましたので、そういった内容は、またご相談したいなというところなんです。

学習会を開くというまでのレベルに今、達しているのかどうかと問われますと、まだそういった状況にはないんですけども、その下準備としまして、そういうことをしていきたい

なと思っています。

隅田委員

だから、学習会を開くレベルにないというか、その知らないから学習するということで、すごい初歩的な学習とかでもいいかなと思います。

杉原保健福祉課長

保健福祉課長、杉原です。

こちらからのそういった内容の提案という形ではなくて、委員の方々からのご提案とかご意見を頂くという学習会ということであれば、当然我々にとっても有意義な内容になるというふうに考えています。

隅田委員

いや、たぶんだからほかの大阪市内の他区の取組とかでもいいですし、そういう事例を聞いたりとか、そんなんでもいいんじゃないかなと思います。

杉原保健福祉課長

ありがとうございます。

木野議長

そうですね、旭区だけじゃなく、ほかの区がどんな取組しているのかというのもほんとは聞きたいなという気はしますね。ですから、あまり全部バツと言うてもいかんでしょうから、今せっかくこうやって提案していただいているんですから、このネットワークづくりというのにどう関わるか、関わってるところはどんなことをしているのかとかいう、やっぱり勉強会されたらどうなんですかね。

杉原保健福祉課長

ありがとうございます。

木野議長

ほかはよろしいですかね。

またあればということでさせてもらいましょうか、いいですか。

先ほど初めに、岡委員と鎌田委員さん、この追加意見のほうへの対応方針とかいうのは、これは読んでいただけましたですかね、皆さん、別にもうよろしいですか。

ほかに。

岡委員

1つ、子ども110番で役立ったという例があればどうかと思ったんですけども、例は特に書いていないんですよ。

花田区長

実は、その役立ったというところは、何かきっちり押さえられてないんですって、申し訳ないんですけど、聞きましたんですが、市民協働課の話で、今日は来てないですけども、それはちょっとできていませんでした。ただ、実はおっしゃるように、古くなってるものとか、あと、何年か前に1年前か2年前に保護者サイドの方とか、本来守るべき方が、子どもを殺しちゃったとかというのがあったりとかしたので、その掲げていただくところを、今までは申請があれば掲げていただいていたんですけども、もうちょっと精査する必要があるんじゃないのっていう今、議論になっています。

特に個人のお宅に入るというのは、子どもにとってもハードルが高いでしょうから、ここにも書いておりますけれども、お店、コンビニとか、1階レベルにあって割と入りやすいお店とか、もしくは事業所ですよ。例えばこの近くにある介護のステーションだったりとか、そういうようなところに貼っていただけるように、子どもの登校の状況とかも考えながら、一定の間隔では準備できるようにということで、去年から実は考えてたんですが、たまたまこれを重点的にやってた係長が替わりまして、「ちょっと今こないどうなってたん、これ？」って聞いたら「ちょっと今止まっていますねん」と市民協働課長が言っておりましたので、ネジ巻いておりますので、実際にほんとうに役に立つように、役に立ってる事例というのはあると思うんですけども、ちょっとそこはどう図るかということも含めて、この110番につきましては、やはり安全を確保するというところがすごい大事で、部分でどう安心できる場所を確保するかということとセットで考えたいと思っています。それには学校でありますとかPTAさんでありますとか、見守りの方とかのご意見も頂かないと、これは進められないなと思っておりますので、ちょっとこれは何とか年度

内にはと思っています。よろしくお願いします。

木野議長

ほかは何かありますか。

中野委員

P T Aの中野なんですけども、先ほど言われた子ども110番のプレートとか旗とかを学校P T Aのほうから保護者の中で、その地域の中で掲げていただける方を探しながら、また区役所のほうに出して作って、その材料をもらうんですけども、結構デザインとか、もうずっと変わっていないもので、昔からもう同じような形なんで、やっぱりちょっとややこしい人、ちょっとこの人持ったらあかんやろうというような人が、もう家で掲げてたりして、子どもに「子ども、そこ行ったらあかんよ」と言うたところに、それが貼られてたりということがあって、やっぱり変える、デザインを変える。渡すのはいいんですけど、回収まではしてなかったんで、だから、そういうのをやっぱりちょこちょこ変えたほうがよくて、もうやっぱり今はこれなんだよという、子どもに教えていかなあかんのかなというふうには思いました。

以上です。

木野議長

ほかはよろしいですか。だいぶ時間が過ぎてきましたけど、何か追加のご意見とかよろしいですか。

そうしましたら、ちょっとだけ私から言ってもよろしいですか。

これを配らせていただけてますけども、安心の子育て旭区民フォーラムというのを、これはですから区役所がお金を使ってやってるわけじゃないので、評価してもらうのはいかんかもしれませんけども、私がこれは旭区の区長さんがいつも言われてる安心して子育てできるという意味では、今年するのはすごくいい機会かなと思っております。さっきから出てますけども、教育とか福祉とか保健とか、いろいろやっぱり縦割りになっちゃってるので、できるだけ一緒になって顔の見える関係を作ったらどうやというので、子育て安心ネットワーク、いわゆるキッズネットができてるわけですね。キッズネットの中で、これもあまり周知されてないけども、あさひキッズガードというのを作って、さあやるかとい

うところをやってるわけで、こういうのがこの区政会議でも少し認識していただいて、評価というよりは、こういうことをやってるといふのを、区政会議の方もやっぱり知っていただきたいなという思いもありまして今日配らせていただきました。

一応私、基調講演で書かせてもらいましたけど、キッズガードのことをお話ししようと思っておりますので、どうぞもしよろしかったら来ていただきたいと思っております。ありがとうございました。

そうしましたら、ほかにありませんでしたら、議事は以上でございますけども、いつものようにですけど、本日の各委員の意見を聞かれまして、追加で意見を述べたいという方がおられましたら、机上配布しております追加意見提案メモを7月23日までにファクス等で提出していただきますと、本日の発言として取り扱うということで事務局から聞いております。

では、そういうことでありますので、最後に花田区長ごあいさつをお願いできますか。

花田区長

皆さま方には、本日もご多忙の中、長時間貴重なご意見を賜ることができまして、ありがとうございます。このタイミングでさせていただきましたのは、ちょっと次年度に向けての動きとして、まだ白紙の状態であるということが去年、おとしからのご意見としてございましたので承るといふ、そういう時期になってございます。ただ、評価につきましては、もう日々と申しますか、月々でも結構でございますけれども、評価を頂きながら、俗にPDCAと申しますけれども、それをしっかり回していきたいと思っております。

あと、目標値のところはパーセンテージがというのがあるんですけども、実はこれは市役所のほうの決まりと申しますか、実際にやった実績というところで、アウトプット目標というのと、ではなくって目指す姿に対してどういう数値がいいかというの、非常に難しいんですけど、アウトカム目標というのがありまして、そのアウトカム目標を出せるときに、満足度であったりとか、何かちょっとフワフワとしたことをとらざるを得ないということになってしまっておりました。

実際上は、今年度からは無作為抽出の方のアンケートということで、1,600人でしたか、もともとは300人、400人ぐらいの市民モニターの方だったんですけども、それを1,600人の方に増やしまして、それも無作為抽出ということですので、たぶんもっと厳しい数字が出てくるのではないかなという気はいたしますが、目標値は下げることなくやっていき

たいなというのが、今私どもの思っているところでございますので、また引き続きいろいろとご助言頂きまして、いい旭区にしていきたいなと思っております。

本日は長時間ありがとうございました。

長谷村総務課長

ありがとうございました。

それでは、これで平成30年度の旭区区政会議第1回（子育て・やさしさ部会）を終了させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。